

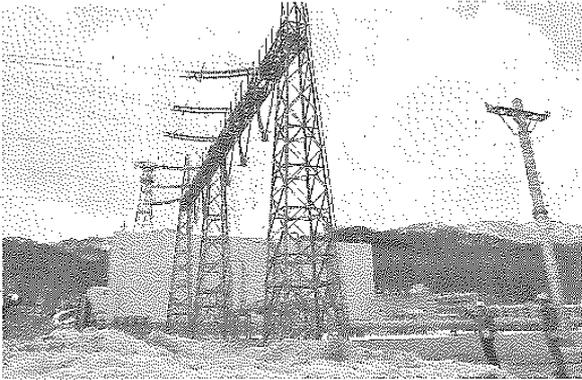
当会賛助会員の北海道電力（株）（札幌市）が、
平成31年4月2日(火)付の、日刊工業新聞に紹介されました。

本州と結ぶ新送電線

北海道電力、30万kW融通

【札幌】北海道電力は、北海道と本州を結ぶ送電線「新北本連系線」の運転を始めた。全長122キロで30万キロワットの電力を融通できる。既存の「北本連系線」と合わせると計90万キロワットの電力融通が可能になり、北海道の電力安定供給力が高まる。2018年9月に発生した全域停電（ブラックアウト）の発生リスクも低下する見込みだ。

新北本連系線は2014年4月に着工して整備した。事業費は約



600億円。北斗変換所（北海道北斗市）と今別変換所（青森県今別町）の間を直流で送電し、海底部分は青函トンネルを経由する。両変換所は交流と直流を変換する機能を持ち変換器に「自励式」を国内で初めて採用。交流電源がなくても交直変換できるほか建設費を低減できる。

運転開始について藤井裕北海道電力副社長は「北海道の電力安定供給の大ききな布石になる」と話す。道内の再生可能エネルギーを本州に送電する役割も期待されている。

「新北本連系線」は新たに30万キロワットの電力を北海道と本州で融通できる